

**神野金之助** 実業家。巨利を挙げて認められ、新田開拓を核に、多くの企業に関与して大資産築き、貴族院議員選出に至る。

かみのきんのすけ

北斎没・・・1849 =

尾張国海西郡江西村(愛知県海部郡八開村江西)で、代々庄屋の七代目神野金平の五男に生まれる。

父金平は、庄屋を勤めるとともに藩から流木留木裁許役を命ぜられ、帯刀を許された。

尊徳報徳論・1851 = 2歳：長兄小吉が名古屋の紅葉屋(洋反物商)富田重助の養子に迎えられ、

ペリー来航・1853 = 4歳：

神野・富田両家の緊密な連繫をもった事業活動が始められる。

五ヶ国条約・1858 = 9歳：

桜田門外変・1860 = 11歳：

大政奉還・・・1867 = 18歳：

明治維新・・・1868 = 19歳：

学問のすすめ1872 = 23歳：愛知県となって大小区制が敷かれると、江西地区の副戸長に任命され、やがて、戸長となる一方、

明治6年政変 1873 = 24歳：

紅葉屋の活動のほか土地担保金融などで巨利を得、名古屋実業界に認められる。

三つの内乱・1876 = 27歳：兄小吉が死去し、その庶子吉太郎(重助)の後見人となり、名古屋に移住。紅葉屋は番頭に譲与。

西南戦争・・・1877 = 28歳：名古屋米商会所取締役に選任された。

そのころから盛んに土地を購入し、

明治14年政変1881 = 32歳：

8月18日政変 1863 = 34歳：\*沼地の干拓工事に着手

秩父事件・・・1884 = 35歳：額田郡南西部の菱池(50町余)の開拓、

内閣発足・・・1885 = 36歳：

初の対等条約1888 = 39歳：\*東海汽船会社を設立して社長になったのをはじめ、

帝国憲法発布1889 = 40歳：

明治銀行頭取、福寿生命保険社長、朝鮮起業・名古屋電気鉄道・東洋紡績などの重役となり、

郡司千島探検1893 = 44歳：渥美郡牟呂海岸に神野新田の開拓にも着手(旧毛利新田千首町の再開発で、当時岡山県児島郡の藤田新田と並ぶ設備と規模を誇る模範農田)、

日清戦争始・1894 = 45歳：

白馬会・・・1896 = 47歳：竣工し、神野新田と名づけられる。

日比谷公園・1903 = 54歳：

日露戦争始・1904 = 55歳：\*貴族院議員に選出されるに至る。

日露戦争終・1905 = 56歳：

さらに明治40年代には伊勢各地の山林を買収して植林事業に従事し家産を加えた結果、名古屋では第2位の資産家となる。また宗教心があつく、東本願寺の顧問として財政整理にもあたって、

明治天皇没・1912 = 63歳：

原敬首相暗殺1921 = 72歳：

水平社結成・1922 = 73歳：自宅で、没した。